

中川 勲 議員（代表質問）

1 2019年度予算編成について

- (1) 2019年度予算編成の最重点事業は考えているのか。
- (2) 自然災害に対する備えの強化事業はあるのか。
- (3) 浜加積地区福祉センターが耐震不足と判断され、それに対応する事業は考えられるのか。

2 市民が安全で安心して暮らせるまちづくりについて

- (1) 今シーズンの除雪体制について
 - ア 重点的にどこを除雪するのか。
 - イ 昨シーズンの反省をふまえての計画か。
 - ウ 住宅団地内の市道の除雪はなぜしないのか。
 - エ 消雪装置が増えているが、地下水量は大丈夫か。
- (2) 水道事業について
 - ア 水道管の耐震化は進んでいるのか。
 - イ 水道事業の民営化が言われているが、滑川市は考えたことはあるのか。
- (3) 児童生徒の安全対策について
 - ・ 地下道の安全通学のためにも、防犯カメラや照明の照度アップが必要ではないか。

3 農業について

- (1) 滑川市において富・富・富の生産量はどうであったか。
- (2) コシヒカリの1等米の比率が悪かったとのことだったが、来年度はどうするのか。
- (3) 深層水トマトの評判が良く、売れ行きが良いとのことだが、来年度は

増産の予定はあるのか。また、他農家で生産も考えているのか。

(4) 鳥獣被害の状況と対策は効果があるのか。

4 観光について

(1) 来シーズンのほたるいか海上観光の準備は順調に進んでいるのか。来シーズンも2隻体制で行うのか。

(2) みのわ温泉・テニス村の活性化について

ア 温泉施設の利用状況はどうか。また、テニス村、クラブハウスの利用状況はどうか。

イ PR活動はしているのか。

ウ 利用者からアンケート調査をしたことがあるのか。

古沢 利之 議員（代表質問）

1 子育て支援について

- (1) 学童保育「支援員」の「研修」への受講は進んでいるか。
- (2) 市内の学童保育は、従来の厚労省「基準」に沿っているか。
- (3) 先日「基準」が見直された。「保育」の質の低下も懸念されているが、見解と対応を問う。
- (4) 支援員の処遇改善は進んでいるか。

2 市民の安全について

- (1) 防災訓練の内容の見直しは検討しているか。（避難所の設営、運営などについて）
- (2) 家庭用火災警報器の設置状況
- (3) 警報器の設置義務化から10年、今後の取り組みについて

3 市民の健康について

- ・ 風疹対策として抗体検査の啓発と予防接種への助成を検討する考えはないか。

青山 幸生 議員（一般質問）

1 教育方針について

- (1) 教育委員会は、首長から独立した行政委員会であるが、本市の教育委員会は組織をどのように考えているか。
- (2) 中学生の部活動は、週あたり2日の休養日を設けているが、今後、文化・運動能力に支障はないか。スポーツクラブなど他団体との連携はどうなっているか。
- (3) 土曜授業日に公欠となる全国大会と、滑川市、滑川市教育委員会が後援・共催しているものはどのぐらいあるか。
- (4) 11月9日に公欠の取り扱いについて学務課に相談に伺い、事の経緯を伝えた。その中で学務課長は「担任なんて」との回答だったが、あれは一体、何についての「なんて」だったのか。
- (5) 公欠の取り扱いについては、平成30年度の要項から変更との回答であったが、保護者にどのように周知したのか。

2 交通事故ゼロを目指して

- (1) 県道黒川滑川線と市道下梅沢上小泉線との交差点は、南側から進行した場合、東側から来る車が見えない。これを解決できないか。
- (2) 宮窪大島線と北野国道線との交差点は、近年事故が多発している。西側から進行すると、南側から来る車が見えない。これを解決できないか。
- (3) 滑川富山線の緑町公民館周辺は近年事故が多い。街灯の向きの調整等や山側歩道に街灯を新設できないか。

尾崎 照雄 議員（一般質問）

1 行政評価（事務事業評価）について

- (1) どのようなやり方をやっているのか。
- (2) どのような活用をしているのか。
- (3) 公開してはどうか。

2 教育委員会の事務の点検及び評価について

- ・ 報告書を12月に公表しているが、決算特別委員会に間に合わせることはできないのか。

3 安全・安心について

- (1) 通学路に面しているブロック塀の安全点検について
 - ア 点検を実施したのか。
 - イ したのであれば、結果はどうであったか。
 - ウ 撤去に対する市の取り組みは。
- (2) 避難路に面しているブロック塀の安全点検について
 - ア 点検を実施するのか。
 - イ 撤去に対する市の考えは。

4 東福寺野自然公園について

- (1) 滑川市における東福寺野自然公園の存在を、市長はどう考えているのか。
- (2) 青雲閣の計画について
- (3) 岩城家について

- (4) バーベキュー広場について
- (5) 不水掛遺跡公園展示館の管理について
- (6) 利用者増への取り組みについて

脇坂 章夫 議員（一般質問）

1 観光について

- ・ 東福寺野自然公園にあるSLハウスと、富山湾に沈む、夕日の2つを融合した観光について

2 除雪について

- (1) 通学路の除雪について
- (2) 県道、市道等の横断歩道の除雪について

3 滑川市の水資源について

- (1) 魚津市鉢地内の養豚について
 - ア 豚コレラで殺処分された場合の処理について
 - ・ 埋却の場所を聞いているか。また、殺処分された廃棄物を移動するときは市内を通るのか。
 - イ 豚コレラで汚染された農場内の消毒物、汚染物の処理について
 - ・ 埋却の場所を聞いているのか。また、農場外に移動するときは市内を通るのか。
 - ウ 豚コレラが発生したときの地域の対応について
 - ・ 大浦地区、蓑輪地区はどうなるのか。
- (2) 早月川付近で埋却されないよう県の方に注意喚起すべきと思うが。

4 市内の湧水マップについて

- (1) 市内で湧水箇所は、何箇所か。
- (2) 湧水箇所の近年の水位変化は。
- (3) 湧水や地下水の塩水化はどうか。

竹原 正人 議員（一般質問）

1 観光振興について

- (1) ほたるいか海上観光の今シーズンの実績を踏まえ、来シーズンへの取り組みをどう考えているのか。
- (2) 富山湾岸クルージングの乗船客数については、一昨年に比べ、今年度は大きく増加したが、増加の要因の検証と、今後の事業展開についてどう考えているのか。
- (3) 外国人観光客の誘致について、今後、どう取り組んでいくのか。
- (4) 更なる観光客の誘致を進める中で、本市で宿泊しての滞在型、あるいは他市町村との観光地の連携による通過型の観光客誘致の取り組み方について、今後の展開は。

2 子どもたちの安全・安心について

- (1) 小学校・中学校の空調設備導入による今後の維持管理をどのように行っていくのか。
- (2) 通学路の歩道における、路面のヒビ割れや、うねり、歩道ブロックの破損など、修繕すべき箇所を把握し、対応しているのか。

3 コミュニティバス事業について

- (1) 今定例会で、コミュニティバスの修繕費が 300 万円計上されている。老朽化が原因と伺ったが、小出しに修繕をしても、いずれは買うほど修繕費をかけなければならないと考える。以前から補助金頼みで、バスの更新が計画的に行えているとは感じられない。いつ更新できるかわからないバスをだましまし走らせるくらいなら、補助金に頼らないで毎年 1 台ずつ更新し、1 台のバスを 7 年償却で走らせれば、予備車や市政バスとしての活用を含め、維持管理については改善できると考えるが、見解は。

- (2) 地域公共交通網形成計画を策定したが、学生向けの利便性の向上も早急に対応できないのか。

4 有害鳥獣被害対策について

- (1) 今年度設置した、イノシシ対策としてのテキサスゲートの手応えは。
- (2) 今後イノシシの駆除に対する取り組みをどのように考えているのか。

開田 晃江 議員（一般質問）

1 食（食品ロス）について

(1) 学校給食について

- ア 残食状況及び残食を減らすための工夫は。
- イ 時間が足りなかったら学校ではどのような工夫がなされているか、食育のためにも。
- ウ 給食が残りそうと思ったときは、どのような対応をしているか。
- エ 学校給食の検食はだれが行っているか。子どもの顔が見えていないような気がするが、どうか。
- オ 1年生は、給食がストレスになる児童もいると聞いているが、市内の小学校での対応は。

(2) 滑川市での食品ロスについて

- ア 調査をしているか、今後の取り組みは。
- イ 富山県では3015運動が進められているが、滑川市の取り組みはどうか。
- ウ 県でも食品ロスを無くすためにセミナーを開催し、啓発している。小学校の教員の受講もたくさんあると聞いた。小さい子どもの食に対する生活習慣の樹立のために、先生を派遣してはどうか。

2 祭りについて

- (1) 滑川市の4大祭り、春のホタルイカ祭り、ふるさと龍宮まつり、ベトナム・ランタンまつり、そしてキラリングルメの森と思うが、それぞれの祭りの助成金はいかほどか。
- (2) 市が助成をしている事業の検証は行われているか。それぞれの祭り、イベントの入場者数は。
- (3) ねんりんピックの選手が『お土産がないね』と言っておられたようである。特産品の販売はどんな品揃えだったか。
- (4) グルメの森のための実行委員会をつくり、龍宮まつりのようにたくさんの市民を巻き込むようなイベントにする考えはないか。

3 公民館の指導員報酬は

- ・ 平成31年に見直しの準備はしているか、考えていないか。

角川 真人 議員（一般質問）

1 あいの風とやま鉄道滑川駅利用促進のための取り組みについて

- (1) 駅前広場での車の進行方向など、明確にわかりやすい表示を増やしてはどうか。
- (2) 朝の送迎車による混雑を解消するため、乗降用の停車スペースを用意してはどうか。
- (3) 駅から自転車置き場までのアーケード部に、雪の吹込みを防ぐためのネットを張ってはどうか。

2 コミュニティバスについて

- (1) 小型バス導入のためのテストとして、タクシー会社に協力を願い試験運行を実際に行ってはどうか。
- (2) 高校通学に駅を利用する学生をターゲットに、駅から加島町消防分団前停留所への直通便を、朝だけでも検討してはどうか。また、定期券や回数券等の検討は進んでいるか。
- (3) 運転免許自主返納支援事業での、フリー乗車券の利用状況はどうか。また、利用回数や期間など今より長く利用できるようにできないか。

大門 良輔 議員（一般質問）

1 富山湾岸クルージングについて

- (1) 富山湾岸クルージングにおいて、2年前と比べ今年度は乗船者数が2倍の6,527人と増加した。その理由についてどのように分析をしているのか。
- (2) 富山湾岸クルージングのシーズンが11月で終わり、ほたるいか海上観光の準備がスタートするまで空白の期間がある。その間、船や船員など経費がかかってくると考えるが、どのような対応をする予定か。
- (3) 富山県は美しい湾クラブに加盟をし、湾を活かした観光振興や資源保護、景観保全に力を入れている。その環境下で、氷見に向けて航路申請の手続に入っていると伺っており、許可がおりれば富山県においても大きな一歩だと考えている。今後、氷見市との連携やどのような事業を進めていきたいと考えているのか。
- (4) 航路申請の許可はいつごろおりそうか。
- (5) 今後、氷見以外にも航路申請を提出したい考えがあると、6月議会で発言があったが、今後の予定について問う。

2 滑川市の大地と水循環を守る条例について

- (1) 滑川市の大地と水循環を守る条例について
 - ア 現状地下水の汚濁や汚染、水量の低下など報告はあるのか。
 - イ この条例の12条「協議対象事業において規制対象基準」において(2)から(6)の「おそれがあると認められる事業」とあるが、基準があいまいであり、どのような基準で判断するのか。
 - ウ 大地と水循環は生命の源であり、今後永久に残していかなければならない財産であれば、地下水の観測地点を増やすことや地下水の調査を正式に依頼をして、しっかりと経過を見ていくことは必要ではないか。
- (2) 工事残土について

- ア 公共工事で出た残土を市有地である海浜公園に溜めて管理をしている。これは県の指針と違うやり方で管理をしているわけだが、なぜこのような管理を行っているのか。
- イ 今後大規模な埋め戻しが必要な工事があり、ストックしている残土が無くなる計画はあるのか。
- ウ ストックされている現場を見ると、粘性土から砂質土の土まで区別されずに置かれている状況であるが、この管理方法で大丈夫なのか。

3 外国人労働者について

- (1) 外国人材は、企業にとって人手不足を補う有効な手段の一つであり、滑川の発展にも大きな役割の一端を担っている。その反面、外国人と地域がうまく共生していくために課題は多くあると感じている。今後増加すると予想される、外国人と我々が共生し多様性の社会実現に向けて、どのように考えるか。
- (2) 外国人材の労働状況について、劣悪な環境で働かされているという報道を耳にするが、状況の把握や市内の外国人労働者の人数の把握などは行っているのか。
- (3) 現在、外国の方が住民登録時に英語と中国語、ベトナム語で「ごみの分け方・出し方」の用紙を作成し、配布をしているが、ゴミの分別や所定の場所と違うところに捨てているケースが見受けられ、なかなか解決には至っていない。今後さらなる対応の検討が必要ではないか。
- (4) 多様性の社会の実現に向けて、お互いの文化や価値観を理解することは大事なことである。今後多文化共生に力を入れているNPOなどをお願いをし、市民と外国人が触れ合う場をつくってみてはどうか。

大浦 豊貴 議員（一般質問）

1 滑川市財政計画について

- (1) 滑川市総合計画の策定以降、流動的に変化する社会経済情勢に対応すべく施策が執行され、本市の持続的発展、独自性、市政の原点である<市民が真ん中の市政>をより一層進めていくためにも、行政と市民の情報共有は必要不可欠である。中でも行財政における情報共有は重要課題であり、平成 23 年に滑川市健全な財政に関する条例が施行され、第 4 条では「市は市民と情報を共有し、情報を分かりやすく公開することにより、説明責任を果たし、財政に関する市民の意見の把握に努めなければならない。」とあるが、これに対しての検証を問う。
- (2) 条例第 18 条では「市長は、予算を伴う計画については、中期財政計画の計画期間内において必要となる予算を明らかにし、中期財政計画に反映させなければならない。」としており、総合計画に限らず予算を伴う計画については、財源の根拠のあるものとして所要予算を明らかにし財政計画に織り込んでいくとある。明確な事業予算や大きな歳出を要す予算計画も状況に応じては計画段階から公表することで市民一人ひとり、市民同士が施策や財政状況を把握し意見を持つことに繋がるのではないかと考えるが、事業計画段階での予算計画または見込み額の公表についての見解を問う。
- (3) 中期財政計画の今後の課題において、「基金残高については、総合計画に定める各種事業の推進や下水道事業をはじめとする公営企業等の地方債の償還にあてる繰出金の増加により、年度間の財源不足の不均衡を調整するための財政調整基金や減債基金の減少が見込まれ、加えて、扶助費の増加や、医療及び介護保険事業等に対する繰出金の増加により、今後も厳しい財政状況が続くと予測されることから、徹底した経費の節減合理化を図り財源の効率的な配分による財政運営を行なっていく」とされているが、その経費節減の具体的項目・効率的な具体的配分の計画を問う。
- (4) 今後の財政状況に対応するため、平成 27 年に滑川市議会では公共施設のあり方に関する提言書を提出し、当局に対し公共施設のあり方について、本提言に則り、積極的に取り組んでいただくことを要望した。しかしながら平成 28 年に策定された公共施設等総合管理計画の進捗が見られない。15 年の計画期間となっているが、現状において取り組み方針や目標設定の変更はないか。

- (5) 施設総量の適正化を図るうえで、公共建築物総量 152 施設延べ床面積 178,314 平方メートルを数値目標として、平成 42 年度末までに延べ床面積 3 %の削減を掲げているが、この目標に対して経費削減額の見通しをたてているのか。ただ総量削減するのであれば効果的な総量の適正化にはならないのではないか。
- (6) 本年 6 月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2018」では、公営企業の広域化、連携、再編・統合など経営の抜本改革を加速させるため、更新費用や料金、繰出基準外の繰出金を含めた他会計からの繰入状況等の収入・支出や、管理者の情報の「見える化」や、繰出基準の精査・見直し、事業廃止、民営化、広域化等及び外部の知見の活用といった改革等を推進すること、また第三セクター等についても財政的リスク状況を踏まえ、各地方公共団体における経営健全化のための方針の策定・公表を推進すると示したが、国の方針に対して滑川市の見解を伺う。

2 公園・緑地整備事業について

- (1) 第 4 次総合計画後期基本計画の中で、平成 26 年度末現在 108 箇所の公園緑地の内 52 箇所を市が管理し、今後も都市整備等により公園設置が予定され管理箇所増加や公園施設老朽化に伴う施設更新に多額の費用が発生すると予想されている。現在の公園緑地箇所数、うち市管理箇所数の推移はどうか。
- (2) 公園施設及び遊具の長寿命化対策を図られているが、予算状況等を踏まえ現在の公園維持管理状況についての見解はどうか。また、今後も管理箇所を適切かつ持続的に管理していくことに支障はないか。
- (3) 公園施設を持続的に管理していくうえで、効果・機能の検証は行われているか。少子化など時代経過により公園のコミュニティ機能は弱まっているのではないか。毎年度投入される維持管理費を考えれば公共建築物と同様に見直すべく公園施設数・機能集約は検討課題となるのではないか。
- (4) 生物多様性の保全を目的とし、花と緑に包まれた自然環境の創出によるネットワーク推進を図られているが、街路樹の老木化進行も問題となり、国土交通省国土技術政策研究所では街路樹再生も検討課題とされている。滑川市では検討されているか。

- (5) 管理している街路樹で相当年数経過し「枯死」「生育不良」「倒伏」「景観価値の低下」「根上がり」など現状の問題箇所はないか。今後課題となり得る箇所はどうか。
- (6) 仮に問題が発生した際は、街路樹撤去・伐採放置・樹種転換など、どのような対応策をとるのか。
- (7) 21世紀桜のまち推進事業及び市町村緑化推進事業等のさくら植樹の推進と街路樹再生を、関連付けて推進できないか。
- (8) さくら植樹の推進は、公共用地、企業用地、町内会管理地及び河川沿い等に苗木の配布を実施されている。ほたるいかミュージアム周辺に集中的に桜を植栽することで、花と緑に包まれた自然環境のPR、景観価値の向上更にはほたるいか観光における相乗効果も図られるのではと考えるがどうか。

浦田 竹昭 議員（一般質問）

・ 大地と水循環を守る条例について

- (1) 憲法第 29 条、財産権の解釈についての見解を問う。
- (2) 民法第 206 条、所有権の内容の解釈についての見解を問う。
- (3) 民法第 207 条、土地所有権の範囲の解釈についての見解を問う。
- (4) 水循環基本法における地方公共団体の責務の全般についての見解を問う。（第 5 条、第 8 条、第 10 条、第 14 条、第 15 条、第 16 条）
- (5) 条例案前文の「～この豊かな自然環境に悪影響を与える行為を抑制し～」の行為とは何かについての見解を問う。
- (6) 条例案第 5 条・事業者の責務の条文で、「～事業活動に際しては、水を適正に利用し～」とあり、また、第 6 条・市民等の責務の条文では、「～水の利用に当たっては～」とあるが、いずれも「水の利用」に限定していると解釈できるが、見解を問う。
- (7) 条例案第 7 条・水源涵養保全地域の指定、並びに第 8 条・指定の手續の条文で、「～水源涵養保全地域として指定～」とあるが、その地域を指定する客観的根拠、並びに指定基準について見解を問う。また、上位法である富山県水源地域保全条例の水源地域の指定との整合性について見解を問う。
- (8) 条例案第 9 条・協議対象事業の条文で、岩石を採取する事業、砂利を採取する事業、土を採取する事業、畜産事業場を設置する事業、一般廃棄物、産業廃棄物の最終処分場を設置する事業の 5 つの事業を指定されているが、なぜこの 5 つの事業のみなのか、並びに、この 5 つの事業を指定された根拠について見解を問う。また、良好な大地と水循環の保全を理念に掲げるのであれば、道路等インフラ整備事業、工場等敷地開発事業、宅地等開発事業等々あると考えられるが、なぜこれらが含まれないのか見解を問う。
- (9) 条例案第 9 条第 2 項の条文で、国又は地方公共団体が行う事業が適用しないとされたのは、なぜなのか、また、国又は地方公共団体は、良好

な大地と水循環の保全に努めなくても良いと理解して良いのか、見解を問う。

- (10) 条例案第 11 条・説明会の実施の条文で、「～その範囲は、市長と事前協議者との協議により決定する～」、「～市長と事前協議が整わないときは、市長の決するところによる～」とあるが、市長が決するときの根拠となるものは何か、また、この行為は市長の裁量、権限を逸脱していないのか見解を問う。
- (11) 条例案第 12 条・規制対象事業（１）の条文で、「他人に危害を及ぼし」、「公共の用に供する施設の損傷」、「他の産業の利益を損じ」、「公共の福祉に反する」とあるが、それぞれの具体的な事項、事案、事例について見解を問う。
- (12) 条例案第 12 条・規制対象事業（２）の条文で、「水源涵養機能を著しく阻害し」、「水源涵養量の減少をもたらす」とあるが、それぞれの立証できる具体的な根拠について見解を問う。
- (13) 条例案第 12 条・規制対象事業（３）の条文で、「水質悪化をもたらすおそれ」とあるが、具体的な科学的根拠と立証根拠、事案について見解を問う。
- (14) 条例案第 12 条・規制対象事業（４）の条文で、「地下水脈を損傷するおそれ」とあるが、具体的に指摘する立証根拠について見解を問う。
- (15) 条例案第 12 条・規制対象事業（５）の条文で、「水道水、生活用水、農業用水、工業用水等の確保に支障をもたらすおそれ」とあるが、支障とは具体的にどの様な事例、事案なのかについて見解を問う。
- (16) 条例案第 12 条・規制対象事業（６）の条文で、「適正な土地利用の確保」、「自然環境の保全に支障をもたらす」とあるが、具体的にどの様な事案なのか見解を問う。
- (17) 条例案第 13 条・規制対象事業の認定及び通知の条文で、市長が「規制対象事業であるか否かの認定を行う」、「協議対象事業の中止を求める」とあるが、市長の過度な行き過ぎた公権力の行使に当たらないか見解を問う。
- (18) 条例案第 15 条・事業の中止及び原状回復命令の条文で、「当該協議対象事業の中止、～現状を回復する命令」とあるが、市長の中止並びに命

令という行為においても、過度な行き過ぎた公権力の行使に当たらないか見解を問う。

- (19) 条例案第 16 条・大地と水循環保全審議会の設置等の条文で、審議会の調査審議事項の内容に対する具体的審議基準、判断基準の明示についての見解を問う。
- (20) 条例施行規則案第 5 条・協議対象事業の条文で、豚房、牛房、馬房等の総面積の数値が明示されているが、総面積とは何を意味するのか、また、数値を示された事業規模としての根拠は、養鶏施設の総面積は明示されないのか、それぞれについて見解を問う。
- (21) 本条例案、施行規則案、並びにこれらに基づいた行政手続に関して、行政事件訴訟への提起が想定されるとともに、危惧するところであるが、これらに関する見解を問う。
- (22) 「良好な大地と水循環の保全」と「住民の福祉に寄与する」との言葉の表現の、使い分け、すみ分け、バランスに関する見解を問う。

